

第 1 回循環型社会計画策定特別部会における委員意見及び対応（案）一覧表

骨子案における区分	意見等	区分	対応内容
第 1 章 計画策定の趣旨			
主旨・根拠・期間	（笹尾部会長）最近の動向を踏まえた新しい課題を新計画に盛り込む際、その内容をそのまま現行計画に盛り込むとさらにボリュームが膨れ上がることから、ある程度取捨選択して、メリハリをつけて進めて行くのがよいのではないか。	反映	御意見を踏まえ、加除修正を行いました。（本計画が本県における資源循環関係施策推進のための部門別計画として、根拠法令（廃棄物処理法・循環型社会形成推進基本法）に基づく要件を満たす構成としました。）
第 2 章 循環型社会の形成に関する現状と課題			
廃棄物の一層の 3 R の推進	（前田委員） 最近ごみの排出量が下げ止まりとなり、あるいは増えてきているというデータが出てきている。	反映	各目標の分析を行うとともに、近年全国的に頻発している大規模災害や新型コロナウイルス感染症に伴う感染性廃棄物処理等について、課題点を記載しました。
	（晴山委員） 県内において排出される廃棄物の構造（組成）が変容していく可能性があるため、現状について、いつの時代と比較すればよいのかということが難しくなる可能性がある。	反映	一般廃棄物将来予測の前提として、直近の平成30年度一般廃棄物処理実態調査における家庭系ごみの属性分析について記載しました。
	（玉懸委員） 建築物は次第に資産価値が下がっており、廃棄物のストックという側面もあることから、長期的な課題としてよいのではないか。 （前田委員） 空き家の解体が進めば必ずその中に入っているものが廃棄物として出てくるので、対応を検討する必要がある。	反映	上記の家庭系ごみの属性分析において、空き家の増加と片付けごみの問題について記載しました。
第 3 章 目指す循環型地域社会の姿と考え方（⇒目標）			
第 1 節 目指す循環型地域社			

骨子案における区分	意見等	区分	対応内容
会の姿			
	(玉懸委員)「地域循環共生圏」と「循環型地域社会」との関係がよく分からないので、両者の説明がほしい。	反映	今回新たに使用するキーワードである「地域循環共生圏」について、冒頭で整理しました。
	(笹尾部会長) 目指す姿とiiつつ、今までワンフレイズになっていなかった、実施方法を盛り込んでいたという形の表現になっているので、もう少し分かりやすく目指す姿だけを示す表現の方がよいのではないか。 (笹尾部会長) 「開発」を入れず「持続可能な社会」でつなげてしまったほうがシンプルではないか。	反映	ワンフレイズで「基本目標」を設定し、分かりやすく表現しました。 「地域の特色を生かした持続可能な地域循環共生圏が構築されたいわて」
	第2節 目標		
	(晴山委員) 目標値を作るときに、どのような区割りにして目標をつくるかが、この次の5年には求められる。一般廃棄物と産業廃棄物という区割りだけの量・重量の変化というだけでは目標が作りづらい時代になっていくのではないか。	反映	SDGsも踏まえた持続可能な地域社会の構築を念頭に、廃棄物は資源であり、更なる徹底利用が求められるという認識から、 ① 入口側の循環利用率(%) ② エコショップいわて認定店等による店頭回収量(千トン) ③ 地域循環共生圏の形成に資するセメント会社によるリサイクル率(%) の3指標を新たに設定しました。
	第4章 循環型地域社会の形成に向けた施策の展開		
	(笹尾部会長) 「地域循環共生圏」の概念が、目指す姿に出てきて以降、基本的な考え方や具体的な施策にあまり目立って出てこない。各施策等にもこの考え方を盛り込むことより「いわてらしさ」につながるのではないか。	反映	御指摘を踏まえ、具体的な施策においても、物質循環、資源循環、地域循環圏のような箇所で積極的に盛り込んでいきます。
廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進	(晴山委員) 2Rでそもそも廃棄物の出るところを抑制するという考え方をしていくのであれば、再使用とい	反映	施策の展開や目標の各所にて、発生抑制(リデュース)や再使用(リユース)の優先順位が高いことが分かる記載を追加しま

骨子案における区分	意見等	区分	対応内容
	<p>う意味でも事業者を支援していく、という考え方もあるのではないか。</p> <p>(晴山委員) 例えば産業廃棄物のところで、「再使用の促進が必要」という記載はない。2 Rを中心にして考えるのであれば、やはり「再使用」の部分も目標として盛り込んでいってもよいのではないか。</p> <p>(前田委員) 片付けゴミ、空き家解体で発生する廃棄物等について、廃棄物になる前にリユースに回せるものは結構あると思うので、それを支援できるスキームづくりというも盛り込めたらよいのではないか。</p>		した。
	(佐藤委員) 再生資源利用認定製品について、様々な製品がある一方で利用がなかなか追いつかない状況もあるので、ビジネスとしての行き場所が必要なのではないか。	反映	現行の「産業・地域ゼロエミッション補助事業」では、再生資源利用認定製品の普及啓発(CM・イベント出展等)を補助対象としておりますが、更なる利用促進が必要との認識のもと、新たな環境ビジネスモデルの創出支援についても記載しました。
	(笹尾部会長) 環境産業の育成支援という意味を単にモノづくりだけではなく、サービスを含めた形で捉え直して、どういったことができるのか、どういった支援ができるのかといったところも反映させられるとよいのではないかと。	一部反映	現行の「産業・地域ゼロエミッション推進事業」では、サービスなどを含めた概念がありませんので、記載は上記のとおり新たな環境ビジネスモデルの創出支援について記載することとし、御意見として承り追加メニューや別制度等について検討したい。
災害に強く持続可能な廃棄物処理体制の構築	(佐藤委員) 今回の新型コロナウイルス感染症の関係で公衆衛生の確保の観点からも、廃棄物処理機能の強化が求められてくるのではないかと。次のウイルスが出てきた際の廃棄物としての対策について、どこかで謳っておいたほうがよいのではないかと。	反映	第4章第1節1(2)の一般廃棄物処理に係る施策において、感染症に感染性廃棄物等の処理について記載しました。

骨子案における区分	意見等	区分	対応内容
	(森田委員) 新型コロナウイルス関連廃棄物の処理について、一般廃棄物、産業廃棄物という分類に必要以上に固執せず、どのように市町村一般廃棄物処理計画と岩手県循環型社会形成推進計画とで整合を取り、災害廃棄物同様に、危機管理意識を持った廃棄物処理を行うことが重要ではないか。	一部 反映	第４章第１節１(２)の一般廃棄物処理に係る施策において、感染症に感染性廃棄物等の処理について記載しました。 また、当該廃棄物については、本県で感染者が発生した現状を踏まえ、今後の国の関係通知やマニュアル等も確認しながら、安全に適正処理が行われるよう計画の記載に限らず、市町村や組合等と緊密に協議させていただきたいと考えております。
廃棄物の適正処理の推進	(玉懸委員) ごみの発生については、災害などのようにコントロールできない部分がある。このような場合は、いかに生活環境に支障がないよう適正に処理するかという事後の対応が施策の中心になるのではないかと。 (晴山委員) 排出形態が変わらない廃棄物であれば同じような目標でも良いが、時代の変化によって変化が伴うものは３Ｒというより適正処理を目標とすることになるのではないかと。	反映	国の循環型社会形成推進基本計画においても、「低炭素社会の取組への貢献を図る観点からも３Ｒの取組を進め、なお残る廃棄物等」、「食品ロスを削減した上でそれでも発生する食品循環資源」といった表現がみられることから、２Ｒに優先的に取り組み、それでもやむを得ず排出される廃棄物資源について、資源の循環利用（リサイクル）を徹底するといった表現としました。
その他関連事項			
他法令関係	(玉懸委員) 本年４月にフロン排出抑制法が改正され、フロンガスを回収していない冷凍機等の引取が禁止された。廃棄物処理法では、気体は対象外だが、本計画は温暖化防止も理念に含むことから、廃棄物と一体で移動するフロンの記載があってもいいのではないかと。	反映	第４章第１節２(５)自動車リサイクル法の次の(６)関係法令において、フロン、石綿及び水銀（現行計画では水銀のみ）についてまとめて記載しました。
コラムについて	(笹尾部会長) コラムの読み手の対象を県民から市町村職員とした方がよいのではないかと。それを市町村が当該市町村の住民に提供することで、結果として県民にも有益な情報になるのではないかと。	今後 反映	「一人当たりのごみ排出量の順位付け」や「市町村におけるリサイクル率向上に向けた取組」等のグッドプラクティス選をコラムに盛り込むことを検討します。
脱炭素に係る取組について	(笹尾部会長) 脱炭素化という大きな目標も知事から	反映	キーワードで「脱炭素社会」の概念を盛り込み、目指す姿に盛

骨子案における区分	意見等	区分	対応内容
	<p>表明されているので、そのようなことを意識した項立てがあった方がよいのではないか。</p> <p>（笹尾部会長） 廃棄物のエネルギー回収や、廃棄物のエネルギー利用等を打ち出して、CO₂の排出をこういう形で相殺する、役立てるという観点で低炭素に貢献するということを盛り込むのはどうか。</p>		<p>り込みました。また、施策では、全体にリデュースによる廃棄物処理における脱炭素化を基調とするとともに、廃棄物資源からのエネルギー回収や一般廃棄物処理施設のエネルギー回収拠点としての位置付けにも触れました。</p>